

平成24年度【学園研究費助成金＜A＞】研究成果報告書

学部名 文化情報

フリガナ キ ゾウミン
氏名 季 増民

研究期間 平成24年度

研究課題名 アジアにおける「アーバンフリンジ」地域の開発とその変容

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	季 増民	文化情報	教授
研究分担者	黒柳晴夫	文化情報	教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

本研究では、上海、ジャカルタ、バンコクなどのアジア新興国の大都市圏を研究対象地域とし、アーバンフリンジ地域を具体的に抽出（画定）し、その実態をマルチスケールでの詳細な調査（地域の実態が見えてくる。住民の声が聞こえてくる）によって解明する（地域抽出と実態解明）。次に、バージェスの「遷移地帯」などに代表される既存理論との連続性や新興国での実践性について検討し、高度経済成長期の新興国に適合した新たな地域概念と研究枠組みを提案する。さらに地域コミュニティの希薄化、土地利用の混乱や脆弱性に由来する防災上の問題点を踏まえ、アーバンフリンジ地域が都市圏で担うべき機能、持続可能な地域のための整備方針を具体的に提示する

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

5月～7月では1)上海を事例に衛星画像によるアーバンフリンジ地域の抽出、対象地域の選定、100世帯の意向調査を実施。8月～9月では、2)土地利用、景観などの現地踏査、自治体でのヒアリング、統計データの分析、3)対象地域のデータセットの作成を行う、4)アーバンフリンジ地域に自治体単位の統計データを重ね、5)マルチスケールで土地利用と地域社会の変化実態を現地調査により把握する。10月～11月では、6)従来の理論に関する検証を実施。12月～1月では、7)調査対象地域同士の国際比較を通して、アーバンフリンジ地域の特定方法の検証とその改善策の提案を行い、8)模式図を完成させ、判別や研究手法を確立する。2013年3月には、研究成果の公表をした。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

1) アーバンフリンジ地域の抽出方法の確立

アーバンフリンジ地域の市街地側と農村側の境界の画定方法、その定量指標(地目、集塊性、人口属性など)を確立した。

2) 地理学と社会学の研究方法を組み合わせた学際的研究

高度経済成長期における地域構造と社会構造の変容について、地理学と社会学のアプローチ方法を組み合わせることによりその範囲と変化を動的に抽出した。

3) 時間的・空間的な比較が可能なデータセットの整備

対象地域同士の同一基準による比較検討方法の確立を目指した。

4) 地域生活者として住民を位置づける

その生活世界に正面から光をあて、移住から定住へ変わっていく過程及びその要因の分析を行った。

5) 住民間に見られる相互関係の解明

立ち退き農民の集合住宅、内陸農村から流入した農民工の生活空間(専用宿舎・貸家群)、都市から脱出した新中間層の生活空間(Gated community)在住者の相互依存関係と動的平衡を探った。

6) 国際間比較研究の分析枠組みの提示

都市村落空間(中国の「城中村」、インドネシアの「カンポン」)の相互混合に関する研究方法を模索した。

7) 持続可能な地域形成に向けての政策提言を行った。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①アーバンフリンジ地域	②地域構造	③社会的見地	④動的平衡
⑤生活者の見地	⑥国際間比較	⑦上海都市圏	⑧中国

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

季増民 (2013) : Housing Utilization and Life Recovery of Evicted Farmers at the Urban Fringe, SLUAS Science Report 2013, Edited by Yukio Himiyama: pp.未定。

季増民 (2013) : 新興国のアーバンフリンジ地域の抽出と考察方法、『椋山女学園大学研究論集』第44号、pp.未定

季増民 (2013) : 中国のアーバンフリンジ地域の変貌と研究意義、「椋山女学園大学文化情報学部紀要」第12巻、2012. pp.未定

学会発表

季増民: Change of Chinese Urban Fringe Area during the High Economic Growth , The Urban Geography Specialty Committee of the Geographical Society of China (2012年6月30日、中国上海市華東師範大学)